国立国語研究所学術情報リポジトリ

バントゥ諸語（アフリカ）から日本の言語・方言のアクセントを捉え直す

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-08-19 キーワード: 作成者: 青井, 隼人 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003611

青井隼人 haoi@ninjal.ac.jp
国立国語研究所 言語変異研究領域
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

バントゥ諸語（アフリカ）から日本の言語・方言のアクセントを捉え直す

多良間島方言の声調

ピッチ変動の有無と位置によって
3つの音調型が区別される。

青井隼人 (2019)「南琉球宮古多良間方言の欠性的低音調」『音韻研究』22.

		下降パタン	上昇パタン
1	*madu=mai* 暇=も	madumai	madumai
2	*jadu=mai* 戸=も	jadumai	jadumai
0	*juda=mai* 枝=も	judamai	judamai

欠性的対立 Privative Opposition

アフリカでは2つの声調の対立 [H] vs. [L] がしばしば /H/ vs. /ɸ/ の対立で解釈される

多良間島方言の3つの音調型はPWd末の /L/ の有無と位置による区別と解釈できる

音声的対立	音韻的対立	言語例
[H] vs. [L]	/H/ vs. /ɸ/	ソマリ語 (アフロ・アジア語族)
[H] vs. [L]	/ɸ/ vs. /L/	ルゥンド語 (バントゥ諸語)
[H] vs. [L]	/H/ vs. /L/ vs. /ɸ/	ナンデ語 (バントゥ諸語)

Hyman (2001) Privative tone in Bantu, Cross-linguistic studies of tonal phenomena, ed. by Kaji Shigeki, 237–257, ILCAA.

1つ目の韻律語の末尾モーラに /L/ → L1 PWd *madù* PWd *=mai* 暇=も

2つ目の韻律語の末尾モーラに /L/ → L2 PWd *jadu* PWd *=mài* 戸=も

/L/ なし（= /ɸ/） → L0 PWd *juda* PWd *=mai* 枝=も

青井隼人 (2019)「南琉球宮古多良間方言の欠性的低音調」『音韻研究』22.

音調の移動 Tonal Mobility

ツォンガ語 (バントゥ諸語) の /H/ は形態素境界を越えて右に拡張していく

多良間島方言の /L/ は句境界を越えて右の無指定のモーラに拡張していく

h-a#xaviselan-a ‘we are selling to e.o.’

H → *vá-a#xávísélán-a* ‘they are selling to e.o.’

句末の母音には拡張しない (Nonfinality)

Kisseberth, Charles and David Odden. 2003. Tone. The Bantu Languages, ed. By Derek Nurse and Gerard Phillippson, 59-70, Routledge.

L1 *adaǹ+kii=mai* アダン+木=も

L0 *kuba+kii=mai* ビロウ+木=も

adan+kii=mai kuba+kii=mai

L → /L/ は右に拡張される

青井隼人 (2019)「南琉球宮古多良間方言の欠性的低音調」『音韻研究』22.

必異原理 Obligatory Contour Principle

ツォンガ語 (バントゥ諸語) の /H/ 拡張は別の /H/ によってブロックされる

多良間島方言では /L/ が連続した場合、拡張は止まり、右側の /L/ が削除される

H → *ndzi#vóná xí#hlámbétwána* ‘I see a cooking pot.’

ma#tandzá ‘eggs’ の /H/ によって拡張がブロックされる

H → ✗ H *ndzi#vóná má#tandzá* ‘I see eggs.’

Kisseberth, Charles and David Odden. 2003. Tone. The Bantu Languages, ed. By Derek Nurse and Gerard Phillippson, 59-70, Routledge.

L1 *adaǹ+kii=mai* アダン+木=も

L2 *mami+kìi=mai* 豆+木=も

adan+kii=mai mami+kii=mai

L → 右側の /L/ は削除される ✗ H

青井隼人 (2019)「南琉球宮古多良間方言の欠性的低音調」『音韻研究』22.

謝辞 科研費 KAKENHI 11J08110, 14J10046; 国立国語研究所 NINJAL 共同研究プロジェクト「消滅危機言語・方言」「対照言語学」; ILCAA アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「日琉語族内的声調類型論の再構築」